

# 行ってみてわかった 上海の様子

みなさんは、上海には何があるかと聞いたら何を思い浮かべるだろうか？上海を訪れる前の私は上海のテレビ塔、上海ガニ、水道事情が悪い、かつて租界があつたくらいイメージしかなかった。しかし、今ならもつと特徴を言えると思う。上海で感じたことをいくつか紹介したい。

私たちが泊まったホテルは新光迎賓館というホテルなのだが、そこまで行くのが大変だった。今になって思うが、よく辿り着けたものだ。一部の同級生は先に現地に着いていて、私は同級生と3人で上海に一緒に行ったのだが、もし、私が手帳にホテルの住所をメモしていなかったら、きつとたどり着かなかったと思う。空港に着いた後、ホテルの住所と名前を指差して、ここまでお願いと言ったのだが、タクシーの運転手さんはホテルの名前が聞いたことがなかったみたいで、とりあえ

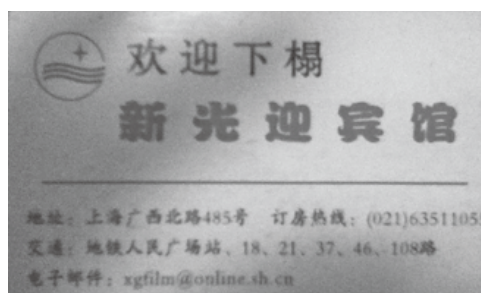
ず住所のどこまで行く運びとなった。そしていきなり驚くべきことが起きた。いきなり給油にガソリンスタンドに行つたのだ。私たちは、みんな「え……？」と唾然となった。そうして出発したが、日本の交通ルールしか知らないで、中国の交通ルールがいい加減さを思い知らされた。ウインカーなんて使わず、縫うように前の車を抜いていくのだ。しかも速度は時速130kmも出してだ。高速道路だからといっても、いくらなんでも飛ばしすぎだろうと思わずにはいられないほど、スピード感があつてスリルのある、楽しいドライブだった。話が少し逸れるが、交通ルールは本当に無法地帯だった。歩行者にとって、青信号も赤信号も関係なく、渡れる状況ならば、渡るものなのだ。また、スクーターなどの乗り方も無茶苦茶だった。3人乗りは当たり前で、そういうところを見て、これ

外国語学部  
中国語学科3年

中川 怜理

が中国の国民性なのだなど感じた。話を戻すが、結局ホテルにはなんとか着いたのだが、ホテル周辺でも運転手さんが場所を知らないから、とりあえずメモの住所付近を巡ってくれて、なんとか見つけつて、運転手さんと私たちはそのとき、発見できてよかったと、喜びを分かち合った。次回行くときは必ずホテルの住所と地図が書いてある紙を見せようと思う。本当にいい教訓になった。

上海に行って2日目  
にすごい光景を見た。  
外がすぐ霞んでいた  
のだ。霧とは明らかに  
違う。日本でも遠くか  
ら横浜や、東京を見る



と空気が霞んでいるのがわかるが、それは遠くから見た時であって、近くでわかるものではない。どうなっていたかというところ、一つ先の交差点ですら霞んでいたのだ。しかも、濃い霧がかかっているかのように、先が見えなかったのである。すごく空気が汚いんだとその日は思った。みなさんはそんな光景に出くわしたことがあるだろうか？ 大都市で、しかも数十メートルもないような先の距離が見えないなんてことが。あとで地下鉄に乗ったときにわかったのだが、地下鉄車内にある液晶パネルで、次の駅の情報やCMの他に、汚染指数なる表示が出ていたことにも驚かされた。見たときは確か40代の数字が出ていたと思う。それが高いのか低いかわからないが、高いように思えたのは、きつとあの霞んだ光景を見たせいだ。このままでは上海がただの汚い都市だと思われるので、念のために言っておこう。普段からそんな風に霞んでいるわけではない。その日だけ異常な程に霞んでいたが、他の日はそんなことはなく、わずかな霞みもない普通の空気だった。

空気に関する話はもう一つある。においだ。少し裏通りに行ってみると生活感あふれるにおいが漂ってくる。出店から漂ってくる食べ物の匂いは日本にはない匂いがした。香辛料のような匂いなど、何の匂いかわからないから、何々のような匂

いとしか言い様がないのだ。横浜中華街でもそんなにおいはしなかったし、これが本場の料理の匂いなんだろうか。これは実際に行ってみてもらわないとうまく伝わらないだろうし、ぜひとも感じて欲しいと思う。その日本では感じ取れない匂いのおかげで、ああ、これが中国：と日本とは異なる文化圏に来たんだなと実感させられたものだ。とにかく、匂いは独特なものが多く、日本では体感できない空気だという意味でも紹介したかった。

上海は大都市であり、行く前までは横浜とか東京みたいに、普段からそこら中に人が多いんだろう程度にしか思っていたが、上海はそんなものじゃなかった。夜になると人がえらく増えるのだ。昼間は大通りも歩きやすく、夜に比べれば人通りも少ないのだが、夜は人がたくさん増えすぎて、人混みで行きたいところに進みにくいのだ。イメージ的には、常に周りの人の動きを見ながら、自分もその進行を妨げないように避けなければいけないのがずっと続く感じだ。もし大人数で行動しようものなら、一人や二人がはぐれていてもおかしくないくらいの人混みができているのである。

普段はそんなには人がいないのかもしれないが、行った時期は中国の大きなお祝い行事である中秋節が控えていた時期で、街中の至るところで月餅を買い求める客たちの行列や、月餅を安く買うた

めのチケットを求める人の行列が夜には多く、もしかすると中秋節が近かったせいでもそんな風に人が多くいたのかもしれない。

上海に来たら一度は見てみたいもの、やはり上海のシンボルでもあるテレビ塔だろう。実際に塔に登ったわけではないけれど、塔を近くで見られたのはとてもうれしい体験だった。あの塔は東方明珠というのだが、それを見る場所としては黄浦江を挟んだ対岸から東方明珠を見るとすごく綺麗に見える。間近で見ると塔しか見えないようなものだし、塔の周りのビルなども一緒に見ると、東方明珠がより映える。東方明珠を見るときに忘れてはいけないのは、背面にある歴史ある建物群だ。つい東方明珠ばかり見とれてしまうが、周りの時計台など、歴史と荘厳さを感じる。東方明珠側から時計台を見るとまた美しい。黄浦江を挟んで時計台側、東方明珠側どちら側から見ても美しい風景が広がり、一見の価値ありだ。いや、一見どころではない、何度見ても感動すること間違いのないのを保証する。ちなみにどちらの風景を見るにせよ、それは夜に見てもらいたい。昼に見るよりも夜のほうが美しい。気をつけなければいけないのは、夜といってもあまり遅くはなってしまうと、東方明珠側にある周りのビルのネオンが消えてしまうことだ。だから夜じゃなければ

本当に風景を楽しむことができない。

上海は風景もすばらしいだけじゃなく、食べ物ものすごくおいしい。上海にいてある意味で怖かったのは、食べ物が安すぎて、金銭感覚が麻痺することだ。これがたった数十円で食べられるなんて…！と日本で定食とかを何百円も出して食べることがおかしいことのように思えてくるからだ。大きな通り沿いにあるような料理屋さんでは1品だいたい20元とかするところも多いが、出店が多く存在し、だいたい1品5〜6円で食べられるのだ。こんなものがあるふれているのだ、金銭感覚がおかしくなってしまうのもわかるだろう。日本円に直すとだいたい80円とかそれくらいなんだから、いかに中国の物価が安いかわかることだろう。上海に行く前は食べ物にあたるかとも思っていたが、そんなこともなかったし、食べ物がおいしかったからすごく幸せだった。よく日本では「早い」、「安い」、「うま



写真が東方明珠側から見た時計台などの建造物

い」の3拍子が揃っていることがよいとされているが、上海ではたいてい「安い」、「うまい」の2拍子(3拍子のところももちろんある)だけれども、「早い」を補うくらい安さがそこにあるので全く気にならない。むしろそれ以上を求めるのはすぐくわがままな気さえしてくる。

上海に行くことこれらの体験ができるので、ぜひ一度行ってみたいと思う。食べ物は安いし、それだけで私は上海に住みたいかと思っただけ感動した。もちろん風景がきれいなところも理由のひとつではあるけど、食べ物が安いこと、それが大きな理由でもある。とてつもなくおいしいのだから仕方ない。正直な話、上海で暮らすのは結構いいことだと思う。今回上海に行った目的は学習が主な目的だったから、まだ見足りないところが多くあるだろうし、本当に上海の全てを



写真が時計台側から見た東方明珠

知ったわけではないので、また上海に行きたい。今度のもっといろんなところをゆつくり堪能したいし、上海にはまだたくさん私の知らない魅力があるのは間違いない。中国だからと何かしらの悪いイメージを持つ人もいるかもしれない。だが、一度行ってみたい。そうすればきっといろいろ新しい発見を得られると思う。なぜそう言い切れるのかというと自分が上海に行っているという得られたのだから、自分以外でも得られるものがあると考えられるからだ。見聞を広めるためにも上海に行って新しい刺激を見つけてほしい。

上海に行ったことがきっかけで、中国語の勉強をもっと努力しなければと思った。そういう意味でもいい刺激だった。向こうで知り合った人、帰国後ネットで知り合った人とチャットで単語とか文の間違えを指摘してもらったりして勉強になることが多いし、上海に行ってから少し生活が変わった。新しい刺激に触れることが大切だと学べたし、貴重な体験ができたので、行ってよかったと本当に思う。毎日の生活に刺激が足りないと思う人、そんな人はぜひとも上海に行くといい！